

11 / 27 (日) の行事

はじめよう、つづけよう。

「北海道スタイル」



～新型コロナウイルスに強い北海道をつくる～ 北海道スタイル

報道発表資料の配付日時 11月25日(金) 15時00分

発表項目 (行事名)	「地域遺産PRイベントinチ・カ・ホ」の開催について
概要	<p>日本遺産及び北海道遺産の価値や魅力、地域での取組内容を情報発信する場を創出して多くの方々にPRすることで、認知度の向上や関心喚起のきっかけとするため、次のとおり「地域遺産PRイベントinチ・カ・ホ」を開催します。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 日時：令和4年(2022年)11月27日(日) 10:00～17:00</p> <p>2 主催：北海道総合政策部地域政策課</p> <p>3 協力：江差町観光まちづくり協議会、北前船日本遺産推進協議会、大雪山麓上川アイヌ日本遺産推進協議会、炭鉄港推進協議会、鮭の聖地メナシネットワーク、小樽市日本遺産推進協議会、NPO法人北海道遺産協議会</p> <p>4 会場：札幌駅前通地下歩行空間 北3条交差点広場(西)</p> <p>5 内容：道内各地で日本遺産による地域振興を行っている方々が一堂に会し、PRを行います。</p> <p>(1) パネル・ポスター展示、パンフレット配布</p> <p>(2) 各認定地域のPR動画放映</p> <p>(3) 参加型イベント(クイズラリー) 正解者には各地域の日本遺産関連グッズの詰め合わせをプレゼント(先着200名)</p> <p>(4) ステージイベント</p> <p>(5) アンケートの実施</p>
参考	<p>○日本遺産とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するものです。道内には、5カ所の日本遺産認定地域と1カ所の認定候補地があります。</p> <p>○本イベントは、前日11月26日(土)に同会場で開催される「北海道ヘリテージウィーク2022」(主催：NPO法人北海道遺産協議会)と連携して開催</p>
報道(取材)に当たってのお願い	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、取材は最小限の人数としていただくとともに、検温、手洗い、マスクの着用にご協力をお願いいたします。
他のクラブとの関係	同時配付(場所) 同時レク
担当(連絡先)	総合政策部地域創生局地域政策課地域政策係(担当者：小林) TEL ダイヤルイン 011-204-5795 内線 21-293

荒波を超えた男たちの
夢が紡いだ異空間

北前船

北海道の「心臓」と呼ばれたまち
小樽 「民の力」でつくられ
蘇った北の商都

江差の五月は江戸にもない
ニシンの繁栄が息づく町

日本遺産

カムイと共に生きる

上川アイヌ

大雪山のふところに
伝承される
神々の世界

本邦国策を北海道に観よ！

北の産業革命

「炭鉄港」

「鮭の聖地」の物語 根室海峡一万年の道程

全問正解者には
日本遺産に関する記念品を
プレゼント！(先着200名)

26日(土)は
「北海道ヘリテージウィーク2022」
見に来てね！！

クイズラリーで
日本遺産の魅力を
ご紹介します。

日時 令和4年 11月27日〔日〕
10:00 ~ 17:00

場所 札幌駅前通地下歩行空間
北3条交差点広場(西)



会場にあたっては、マスクの着用や手指の消毒など
新型コロナウイルス感染症対策の徹底にご協力願います。

【主催】

北海道総合政策部地域創生局地域政策課

TEL 011-204-5795

E-Mail sogo.chisei1@pref.hokkaido.lg.jp

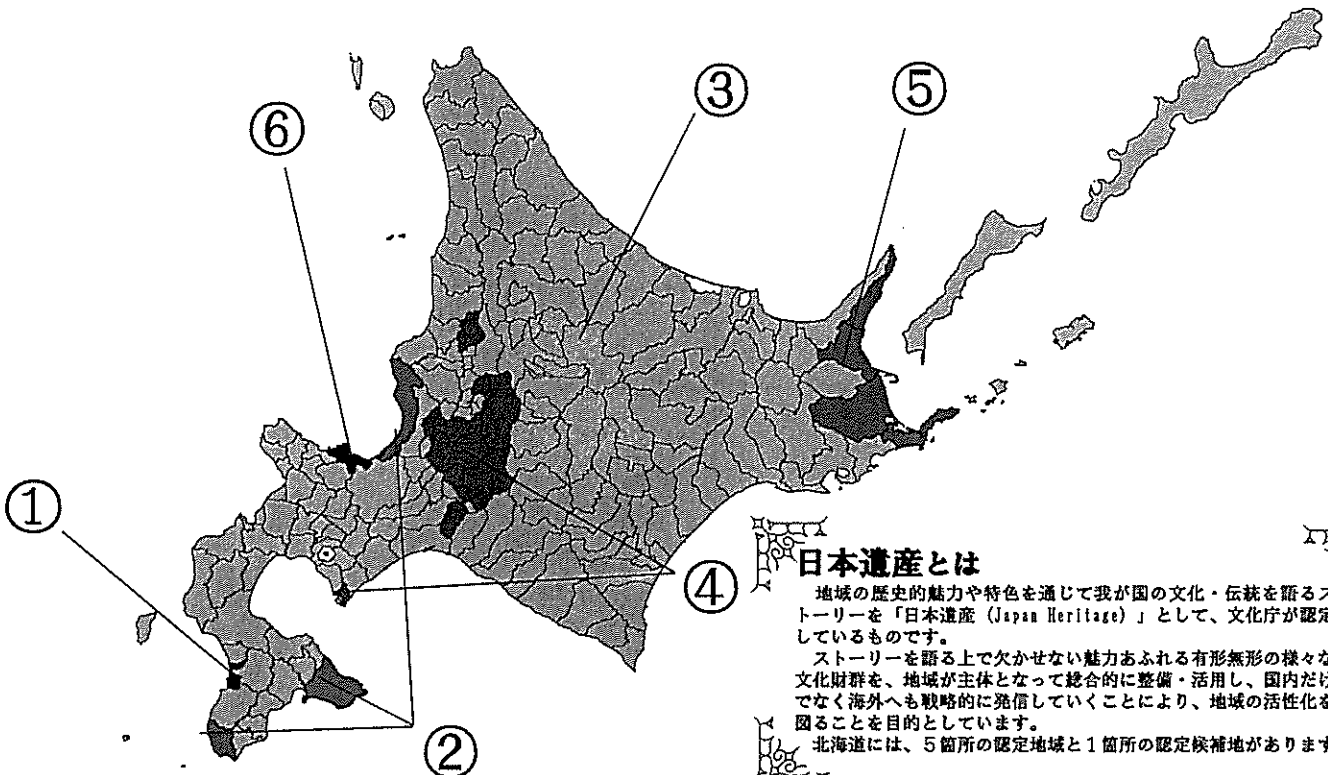
【協力】 NPO法人北海道遺産協議会
炭鉄港推進協議会

江差町観光まちづくり協議会
鮭の聖地メナシネットワーク

北前船日本遺産推進協議会
小樽市日本遺産推進協議会

大雪山麓上川アイヌ日本遺産推進協議会

北海道内にある日本遺産 (令和4年11月現在)



認定地域

日本遺産とは

地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として、文化庁が認定しているものです。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力あふれる有形無形の様々な文化財等を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

北海道には、5箇所の認定地域と1箇所の認定候補地があります。

① 江差の五月は江戸にもない ～ニシンの繁栄が息づく町～

(江差町)

江差の海岸線に沿った段丘の下側を通っている町並みの表通りに、切妻(きりづま)屋根の建物が立ち並び、暖簾・看板・壁にはその家ごとの屋号が掲げられています。この町並みは、江戸時代から明治時代にかけてのニシン漁とその加工品の交易によって形成されたもので、その様は「江差の五月は江戸にもない」と謳われるほどでした。

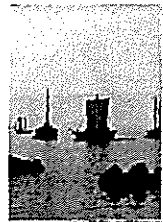


【旧中村家住宅と町並み】

② 荒波を越えた男達の夢が訪いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～

(函館市・松前町・小樽市・石狩市ほか道外市町村)

日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。これらの港町は、荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間となっています。



【立岩前の北前船】
(小樽市総合博物館 蔵)

③ カムイとともに生きる上川アイヌ ～大雪山のふところに伝承される神々の世界～

(上川町・旭川市・富良野市・上富良野町・星置町・比布町・当麻町・東川町・土佐町・鹿追町・士幌町・新穂町)

美しく雄大な大雪山のふところに、カムイ～神～を見出し共に生きた「上川アイヌ」。上川アイヌは「川は山へ潮(さかのぼ)る生き物」と考え、最上流の大雪山を最も神々の国に近く、自然の恵みをもたらす、カムイミソラ～神々の遊ぶ庭～として崇拝してきました。神々と共に生き、伝承してきた上川アイヌの文化は、この大地に今も息づいています。



【大雪山の雄大な自然】

④ 本邦国策を北海道に親よ！ ～北の産業革命「炭鉄港」～

(夕張市・岩見沢市・美幌市・赤平市・芦別市・三笠市・栗山町・月形町・沼田町・安平町・室蘭市・小樽市)

北海道の「石炭」「鉄鋼」「港湾」とそれらを繋ぐ「鉄道」を舞台に繰り広げられた北の産業革命「炭鉄港(たんでつこう)」は、北海道の発展に大きく貢献してきました。100km圏内に位置する3地域を原動力に、北海道の人口は約100年で100倍になり、その急成長と衰退、そして新たなチャレンジを描くダイナミックな物語は、これまでにない北海道の新しい魅力となっています。



【住友別炭鉄立坑 檜】

⑤ 「蛙の聖地」の物語

～根室海峡一万年の道程～

(標津町・根室市・別海町・羅臼町)

北海道最東の海、根室海峡。この地では遙か一万年の昔から絶えず人々の暮らしが続いてきました。その変えとなったのは、大地と海を往来し、あらゆる生命の糧となった蛙です。暮末に一人の会津藩士がこの資源に注目し、水産業の芽を育てます。そして現在、その芽は全国の食卓と繋がる基幹産業へと成長しました。蛙に突い、蛙に立いた人々の歴史と文化、そして誇りがあふれた「蛙の聖地」です。



【西別蛙風干し】
(提供 別海町観光協会)

認定候補地域

⑥ 北海道の「心臓」と呼ばれたまち・小樽 ～「民の力」で創られ蘇った北の商都～

(小樽市)

かつて小林多喜二は、明治以降に、港と鉄道の大動脈により発展していく小樽を北海道の「心臓」と表しました。北日本唯一の商都小樽は、財を成した資本家など「民の力」でまちをつくりあげましたが、高度経済成長期に衰退。荒廃した運河の保存運動を契機に、新たな「民の力」が動き出し、観光への活用・再生に繋げていきます。日本のまちづくり運動の先駆けとなった小樽市民の物語です。



【小樽運河(雪あかりの路)】

魅力ある日本遺産の活動への応援をお願いします。